

朗詠谷らうえいたには大納言公任卿だいなごんきんたふきやうの幽居し給ふ旧跡なり。此所は長谷川ながたにを傍て、北のかたなる山中に入ること五六町ばかり。これを経て解脱寺げだつじといふ旧地あり、今に礎石のこる。こゝにおいて公任卿出家し給ふとぞ。是より一町ばかり北に至れば平地あり、彼卿此所に住給ひ、和漢朗詠集わかんらうえいしふを撰し給ひしとなり。又御所谷ごしよだにともいふ。

世をそむきて長谷ながたにに侍ける頃、入道中將にふだうちゆうじやうのもとより

また住馴しかしなど申たりければ

後拾遺 谷風になれずといかゞ思ふらん心はやくすみにしものを 公 任

長谷川ながたにがはは八塩やしほの岡をかの北なる谷より流れ出て、長谷村の中を西へながれ、岩倉大雲寺いはくらだいうんじの前より南に落ちて、幡枝にながるゝなり。花園はなぞのは長谷の南にあり。